

# 令和3年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

## 第6学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の定着や語彙力に大きな差がある。</li> <li>○伝える相手や目的に応じて文章を書いたり、話したりすることなど、自分の考えや思いを伝えることについては個人差が大きく、課題のある児童が少なくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の学習だけでなく、読解や作文の際にも、言葉の繊細な使い分けや言葉の選択の仕方による違いを楽しめるよう指導する。</li> <li>○目的や相手に応じた話し方や書き方の工夫や構成を考えさせ、まとまった文章を書いたり話したりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字を学習する際に、熟語やその意味を調べ発表させることで、意欲的に語彙を増やし、漢字の定着を図る。また、読解や作文の際も、辞書を活用させ、言葉の意味をよく考えたり話し合ったりする時間をつくることで、言葉に対する興味・関心を日常的に育てる。</li> <li>○読解の学習を進める中で、要旨を書きまとめたり、読み深めたことについて自分の意見を書いたり、発表したりするなど、さまざまな活動を取り入れ、伝え合う活動を通して意欲を高める。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象に対する関心や意欲は高く、興味をもって進んで調べたり学習に取り組んだりする児童が多い。</li> <li>○自分のもっている知識だけを根拠にして考える児童が多く、資料の中から必要な情報を選び、それらを活用しながらまとめたり、課題を見出したりすることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入や資料提示の工夫を行い、さらに児童の意欲を高められるようにする。</li> <li>○資料を読む機会を多く設け、話し合ったり交流したりしながら、課題解決できるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用して、より効果的な資料提示の方法を考える。課題に沿った情報を探することができるよう、導入で学習のねらいをしっかりと共有する。</li> <li>○個別に課題解決する時間を確保するとともに、タブレットを活用して情報共有を行い、よりよい課題解決の方法を知る機会をつくる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>○学習していることが既習のものと関連づけられている。</li> <li>○一番上のコースの中には、自分の実力を過信している児童が見受けられる。</li> <li>○計算は得意だが、文章を読み取って式を立てることができない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○得意不得意を自慢したり卑下したりすることなく、みんなに分かるように説明をするのが上手である。</li> <li>○既習の学習を基に考えたり、説明したりするのが上手である。</li> <li>○知識はあるが、それを応用できる、説明できる児童は少ない。</li> <li>○繰り返し図を描いて、2数の関係を把握してから立式するように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表することに自信がない児童も発表できる方法をさらに見つけられるようにする。</li> <li>○ノートをもとめる時間をとる、既習事項とのスムーズな関連付けができる導入の工夫をする。</li> <li>○入試問題や発展問題を用意する。</li> <li>○理論立てて説明する練習ができる機会をつくる。モデルを見せたり、マニュアルを示したりする。</li> <li>○言葉の式やキーワードなどを掲示したり、ノートを振り返る時間をとったりする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識を十分に身に付けている児童は多いが、生活の中の現象や体験と既習事項を関連付けながら、課題設定したり、仮説を立てたりすることが全体的に苦手である。</li> <li>○課題解決のために、実験や観察結果から考察をし、結論を導き出す力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的意識を高めるために、身近な題材や事象を想起させるような発問の工夫を行う。また、問題提示から結論までの全体の見直しをもって活動できるように、学習の進め方を指導する。</li> <li>○実験結果を的確に読み取り、他者との交流を通して様々な意見や事象に触れるようにする。また、広げた考えから推論し、結論を導き出させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の身近な生活体験や興味・関心があることを題材にして、問題提示の工夫をする。常に問題やねらいを身近な事象と結び付けながら、学習を進めさせる。</li> <li>○交流の時間を十分に確保し、他者との考えを比較したり、共通部分を見付けたりしながら考察することで、結論を導き出せるようにする。</li> </ul>

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な運動感覚を身に付いていない児童が多く、技能に個人差が大きい。</li> <li>○自分に合っためあてを立てられず、運動に消極的な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補助運動の場を設定したり、基礎感覚作りの時間を設けたりし、楽しみながら様々な運動感覚が育つようにする。</li> <li>○スモールステップで自分に合っためあてを立てて運動に意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲーム感覚でできるような補助運動を多く取り入れ、児童が楽しみながら活動することができるようにする。</li> <li>○技のポイントの順番を示し、スモールステップでめあてを立てさせる。</li> <li>○デジタルカメラやタブレットを活用し、技を客観的に見ることで、よりポイントを理解できるようにさせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前向きな学習態度で楽しみながら学習に取り組んでいる児童が多い。</li> <li>○合唱や合奏を好む児童が多く、楽器の編成や楽器の数などを自分たちで考え進めていくような学習の際に意欲的に取り組む姿が見られる。</li> <li>○楽曲を聴いて感じ取ったことを文章にする力が高まったが、知覚した要素と感受の関係性や楽曲の構造と結びつけて考える力はまだ十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のきまりをしっかり身に付けさせ、定着させる。</li> <li>○状況に応じてリコーダー等の練習機会を設けるとともに、演奏の技能の向上を図り、楽曲の分析を通して思いや意図をもって表現できるようにする。</li> <li>○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素を聞き取り、楽曲の構造や特徴、その良さを理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題に対して、分かりやすく具体的なめあてを設定するとともに、児童の自己肯定感を高められる活動内容や声かけをする。</li> <li>○基礎的な表現の能力を高めるとともに主体的に活動し、音楽表現の喜びを味わえるように指導を工夫する。</li> <li>○知覚したことと感受したことのつながりを考える経験を多くもたせる。また課題の評価の観点を明確にし、指導内容の定着を図るとともに達成感を感じ取れるようにする。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>○興味のあることには意欲的に造形活動に取り組んでいる児童が多いが、アイデアを共有し合うことがまだ十分ではない。</li> <li>○豊かに発想できる児童も多いが高学年になると、常識にとらわれ、発想することに苦手意識をもつ児童が増えてくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見ることの大切さを繰り返し話したり、アイデアを共有し合える雰囲気作りをしたりして、作品に対する興味関心を高められるようにする。</li> <li>○人とは違った良さを認め合う活動を多く持ち、自信を持って発想できるよう適切な声掛けをする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中で、お互いの作品を見合う時間を設定したり、作品を紹介する時間を意図的に設定したりする。</li> <li>○中間鑑賞や技法・作品の紹介を取り入れながら、児童一人一人の造形的な表現力を高め、お互いの良さを認め合える機会を多くもつ。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○被服実習では男女ともに意欲的に取り組み、楽しみながら作業できる児童が多い。しかし中には、現状に満足し、それ以上のがんばりをしない児童や粘り強く取り組むことができず、すぐにあきらめてしまう児童も見られる。</li> <li>○学んだことを家庭生活で生かしている児童と、生かしていない児童がいる。学んだことを家庭で実践する児童を増やすことが課題である。</li> <li>○調理実習ができない状況が続くため、年間指導計画の入れ替えながら家庭と連携し家庭学習で調理に取り組ませるなどの工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の力で粘り強く課題解決に向けて取り組めるよう自主的・主体的な授業や参加型の授業を工夫する。</li> <li>○現状に満足せず、家庭の一員としてできることを一つでも増やし、一つ上の段階やレベルをめざすよう意識させる。</li> <li>○日常生活での必要性などをしっかり確認し、家庭で実践することの大切さを理解させる。</li> <li>○調理に関する題材については、今後も継続して家庭と連携し、家庭学習に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作では、自分の力量に合わせた作業の順序や工程などを考えて判断させ、個人のめあてや目標を決めさせる。</li> <li>○日常生活との関連を意識させるために、具体例を多く挙げ、意見を引き出せるような発問の仕方を工夫する。</li> <li>○「できた」「分かった」などの達成感のある授業や「学習してよかった」と思えるようなお得感のある授業、家庭でも「やってみよう」と思えるような授業づくりをする。</li> <li>○調理の技能を高めるために、家庭と連携し、計画的に長期休暇などに家庭で実践できるよう課題作りを行う。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞く力に優れている児童が多いが、自分から、人前で話したり発表したりすることに課題がある。</li> <li>○英語を流ちょうに話す児童も多く、能力の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スモールステップを多く設定し、十分練習する時間を設け、自信をもって発表できるようにする。</li> <li>○教えあいや交流の機会を設け、全体で語彙力・表現力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○恥ずかしがらずに、英語を口に出すこと、練習することでの上達を感じ、楽しみながら、英語の音に慣れさせる。</li> <li>○技能の高い生徒が、聞き手に分かりやすく、話したり、発表したりできるようにする。</li> </ul>